

主な内容

- 口蹄疫の国外発生状況と対策について ……1
- BSE ステータスの見直しと飼料安全について ……3
- 夏です。暑熱対策に取り組みましょう！ ……4
- BVDV に注意しましょう ……6
- 休耕田放牧の注意点 ……7
- 牛コロナウィルス病の予防にワクチン接種をしましょう！ ……8



口蹄疫の国外発生状況と対策について

防疫課 大家畜担当

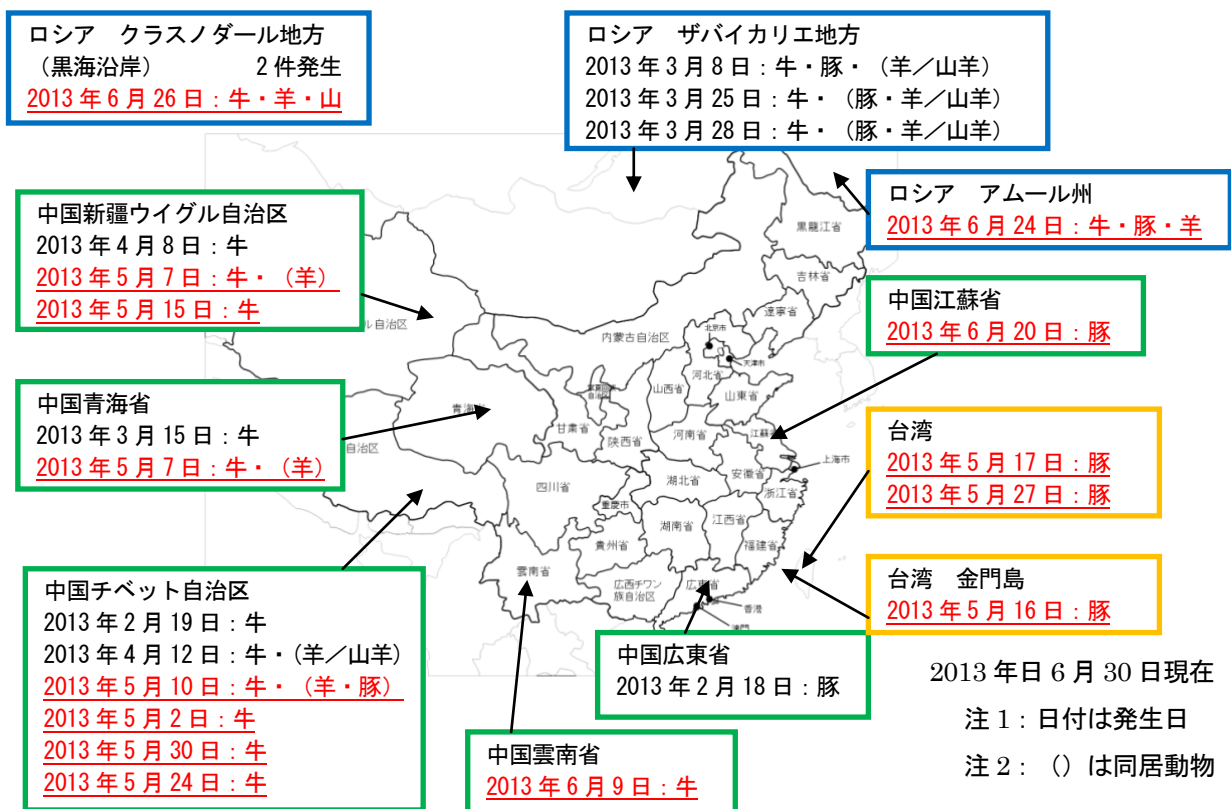
口蹄疫とは？

口蹄疫は、口蹄疫ウイルスの感染による牛、豚等の偶蹄類の伝染病です。発病した動物には、口の中や鼻の周囲、舌、蹄部等に水疱が形成され、食欲不振、跛行（足をひきずる）がみられます。成畜での採食障害や歩行障害、幼畜での高い死亡率により、著しく生産性が低下し、広範囲の畜産経営に壊滅的な打撃を及ぼします。

現在の発生状況は？

日本は清浄国ですが、近隣の中国、台湾およびロシアでは依然として口蹄疫が発生しており、最近では5月～6月にこれらの3か国で15件の発生がありました。

《中国・台湾・ロシアにおける口蹄疫の発生状況（2013年～）》



次のような症状が見られたら？

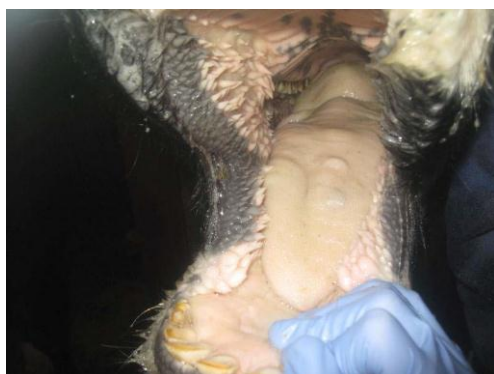
口蹄疫の主な症状です。このような症状が見られたら、自己判断せず、速やかにかかりつけの獣医師か、家畜保健衛生所に通報をお願いします。



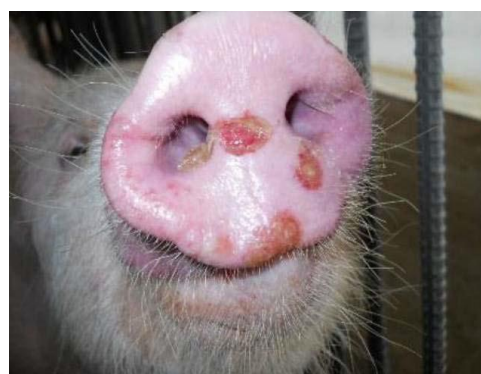
泡沫性流涎



歯床部粘膜のびらん



舌の水疱（初期）



鼻平面の潰瘍

（出典：農水省HP）

侵入防止・発生防止を徹底してください

- 1 口蹄疫発生国への渡航は可能な限り自粛してください。
やむを得ず渡航する場合は、渡航先で畜産関係施設に立ち入らず、帰国後は渡航先で使用した衣類や靴を衛生管理区域に持ち込まないようにしましょう。
- 2 飼養衛生管理基準の遵守を徹底してください。
 - ・農場に入る人や車両の出入りを最小限にし、出入り際には消毒を行きましょう。
 - ・畜舎や器具の清掃・消毒を十分に行いましょう。
 - ・衛生管理区域内への訪問記録を作り、保管をしましょう。
 - ・家畜が野生動物や野生動物の排泄物と接触しないようにしましょう。
- 3 毎日、飼養家畜の健康観察を行い、家畜に異常が見られた場合、直ちに家畜保健衛生所に通報をお願いします。

BSE ステータスの見直しと飼料安全について

衛生課 安全対策担当

平成13年9月に、わが国初のBSE患畜が確認され、これまでに36例のBSEが確認されていますが、平成14年2月以降に生まれた牛での発生はありません。

BSE発生以降、科学的知見に基づいた行政と民間の一体となった対策が実施されてきました。

発生の詳細モニタリングおよびサーベイランス、家畜飼料の製造・流通における規制強化、人のフードチェーンだけでなく飼料からの特定危険部位の除去、全国的な牛の個体識別制度によるトレーサビリティシステムの構築など、非常に高度で詳細な対策が実施されてきました。

今般、平成25年5月30日をもって、OIE（世界獣疫事務局）から「無視できるBSEリスクの国」として認定されました。

今後は、輸出などにおける検疫なども有利となるなど、牛肉の流通促進に追い風となることが期待されます。

当所でも、国と連携した飼料規制に係る調査・収去検査等を実施してきましたので、その概要について報告します。

なお、本調査・検査において違反事例はありませんでした。今後も引き続き、安全な家畜飼料の流通、適正使用にご協力いただきますようお願いいたします。

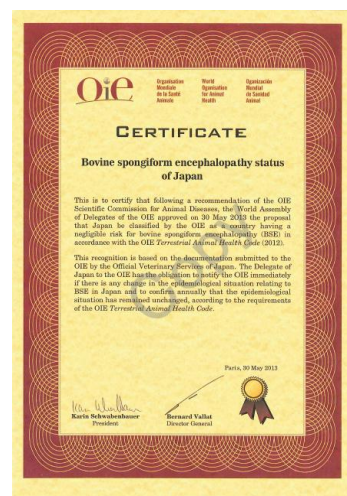
県南家保管内実績

年度	事業所立入※1	農家調査※2	飼料検査※3
H15	12	—	26
H16	12	—	27
H17	13	—	12
H18	13	—	14
H19	13	—	14
H20	13	15	15
H21	13	25	12
H22	13	30	12
H23	11	30	13
H24	13	30	16

※1 飼料販売、製造事業所における取扱い・保管状況、諸帳簿等の記録など

※2 農家における取扱い・保管等の状況など（H20年度以降）

※3 流通飼料（A飼料）における動物性タンパク混入の検査成績



これがOIEの
認定証だよ！！



夏です。暑熱対策に取り組みましょう！

防疫課 中小家畜担当

ここ数年、夏の暑さがとても厳しくなっています。気象庁の発表では、向こう3ヶ月の気温は平年並みか高い予報となっており、今年の夏も暑くなりそうです。採食量・受胎率・産卵率の低下といった、暑熱による悪影響が心配されます。夏場も家畜の生産性を維持するために、家畜が健康で快適に過ごせる環境づくりに努めましょう。

暑熱対策のポイント

- 畜舎外から畜舎温度を下げる
スプリンクラー等による屋根への散水、屋根への石灰塗布（事例1）、グリーンカーテン（事例2）・寒冷紗（事例3）の設置
- 畜舎内設備で畜舎温度を下げる
換気扇・扇風機による送風、細霧装置による冷房、クーリングパッドによる冷房、家畜への直接散水
- 体感温度を下げる
毛刈り、飼養密度の低減、ペットボトルクーリング（事例4）
- 飼料給与法の工夫
冷水の十分な給与、涼しい時間帯に給与、給与回数の増加（1回あたりの給与量を減少）、ビタミンやミネラルの添加

この中から、エコでお財布にもやさしい暑熱対策事例をご紹介します！

事例1：畜舎屋根への石灰塗布

石灰を水に溶かして石灰乳を作り、屋根へ塗布します。牛舎では、屋根裏温度：約15℃低下、畜舎内温度：約5℃低下といった効果が認められています。長持ちさせるために、ムラなく塗るのがポイントです！



事例2：アカザを用いたグリーンカーテン

畑などに自生している雑草のアカザを、畜舎東側と南側に移植します。成長が早く、夏季には畜舎屋根まで覆いますが、夏過ぎには枯れるため後処理も簡単です。

注意：風通しを良くするため、下部の枝や葉は切る必要があります。



事例 3：寒冷紗の設置

グリーンカーテンよりも手間がかからないのは寒冷紗です。代わりに「ひさし」や「よしず」等を使用しても効果的ですが、これらの遮光材は自然の風も遮るため、換気の効率が悪くなります。このため設置場所や角度を検討するとともに、送風装置の併用についても検討が必要です。



事例 4：ペットボトルクーリング

ペットボトルにて製氷し、融け出した冷水を牛や豚の頸部に滴下することにより、全身の血流を冷やして熱性ストレスを緩和する手法です。低コストなことから、近年、利用する農場が増えているようです。

【作り方】

- ① ペットボトル（1.5～2ℓ）・割り箸、竹串、輪ゴムを用意します。
- ② 適当な長さに切った割り箸と竹串を輪ゴムで十字に結わえます。
- ③ ペットボトル内に入れると、自然に開きます。
- ④ 水を入れ、冷凍庫でじっくり凍らせます（できれば -20°C 以下）



ペットボトルを逆さまに吊るし、牛・豚の頸部に冷水が滴下するように設置します。分娩舎の母豚に使用する場合は子豚が濡れない場所に設置します。乳牛に使用する場合はこまめな除糞や送風を併せて行い、牛床が濡れることによる乳房炎誘発を防ぎます。

この手法により、豚で①受胎率の向上、②発情回帰日数の短縮、③周産期疾病の重篤化防止といった効果が認められている他、牛では体表温度が 2°C 低下し、「牛が立つようになった」との声もあったようです。



家畜の種類、畜舎構造、昨年までの暑熱被害の状況等により、農場に合った対策は異なります。上に挙げた手法をいくつか組み合わせて、あつ〜い夏を乗り切りましょう！

牛ウイルス性下痢ウイルスに注意しましょう

防疫課 病性鑑定担当

牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）は、下痢、呼吸器症状、発育不良のほか、繁殖成績の低下を引き起こします。免疫を持たない母牛が、妊娠期間に感染を受けると、流産や異常産となることがあります。さらに、正常に生まれたように見える子牛でも、ウイルスを自分の体の一部と認識し、多量のウイルスを生体排出し続ける持続感染牛（PI牛）となる場合があります。PI牛が農場内にいた場合、免疫を持たない牛へ感染が拡大し、新たなPI牛の発生、繁殖成績の低下、乳量減少など甚大な被害を及ぼします。PI牛は、消化管粘膜にびらんが形成される粘膜病や、慢性の下痢により死亡します。

○ 県南地域での発生は？

平成23年度は、3戸6頭（異常産子1頭、粘膜病2頭、PI牛3頭）の発生がありました。平成24年度は、1農場で2か月間に6頭の流産が発生し、うち3頭はBVDVが原因でした。平成25年度は、今のところ発生が確認されていません。

○ 対策は？

PI牛の早期発見と淘汰が重要です。日頃から、牛をよく観察して、本病が疑われる症状（流産、異常産子、発育不良、難治性の下痢など）を発見したら、かかりつけの獣医師の診療を受けましょう。また、免疫を持たせるためにワクチンを接種しましょう。特に、導入や牛の移動の多い農場及び放牧場では、必須です。

○ 家畜市場の対策は？

乳牛市場では、平成20年7月から上場牛全頭にワクチン接種が行われています。加えて平成25年7月からは、成牛市場でも上場する肉用妊娠牛にワクチン接種が義務づけられました。



口腔粘膜のびらん



BVDVによる流産胎子

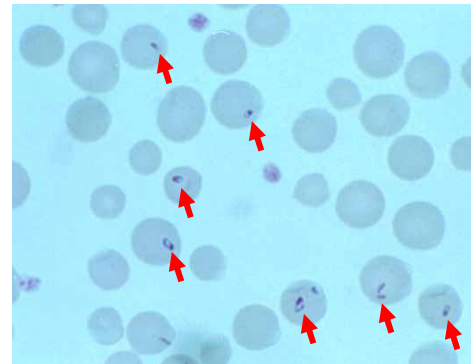
休耕田放牧の注意点

衛生課 大家畜衛生担当

放射性物質の除染が進み、休耕田放牧が再開される地域が見られるようになりました。以下の疾病に注意しましょう。管内において疾病の発生が確認されていますのでその概要と予防対策について説明します。

ピロプラズマ病

ピロプラズマ原虫の寄生によっておこるダニ媒介性の伝染病です。ピロプラズマ原虫は赤血球に寄生し（右写真）破壊するので貧血・高熱を引き起こします。治療薬は現在製造中止になっており、予防が重要となります。多くの公共放牧場で使われていますが**自家放牧においても殺ダニ剤を塗布**しましょう。



赤血球に寄生するピロプラズマ原虫（矢印）



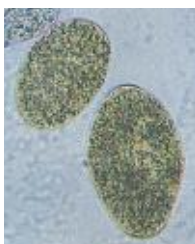
見えますか？
頸部から胸垂部で吸血中の若ダニがいます（飽血落下直前）
（写真：動物衛生研究所 寺田先生より）

肝蛭症

肝蛭の寄生によっておこる牛・山羊・羊などの疾病です。肝蛭は肝臓や胆のうに好んで寄生しますが、口から侵入し肝臓や胆のうに移動する際に腸やその他の臓器を破壊するため様々な症状（貧血・下痢・発熱・消瘦・泌乳量低下・発育不良・繁殖不良等）を引き起こします。肝蛭の増殖には淡水生の巻貝（ヒメモノアラガイ）が必要（中間宿主）で、このヒメモノアラガイは水田・用水路・湿地・ため池等幅広い環境に生息するため、**通水中の水路がある休耕田では注意が必要**です。獣医師に相談し、**定期的に駆虫**しましょう。



実験感染例における肝臓表面の多数の虫道と組織破壊による黄白色病巣および出血
（家畜疾病カラーアトラスより）



肝蛭の虫卵

（家畜疾病カラーアトラスより）



肝蛭の成虫（生標本）

（家畜疾病カラーアトラスより）



水田内に見られたヒメモノアラガイ
右巻きが特徴。右下図は拡大図
（家畜疾病カラーアトラスより）

牛コロナウィルス病の予防にワクチン接種をしましょう！

県南家畜衛生推進協議会

- 冬場に流行する搾乳牛の下痢は、牛コロナウィルス病が原因かも？
- 下痢の発生期間中、乳量が大幅に減少し、大きな損失となります。

牛コロナウィルス病の症状は、伝染性の下痢（淡褐色から暗緑色の水様～泥状）で、搾乳牛では、乳量が10%～20%くらい減少します。

本県内でも発生が確認されていますが、多くは、寒冷期（晩秋～早春）に成牛から子牛まで全ての牛に発生が見られます。

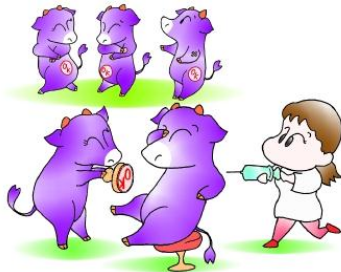
本病は、牛コロナウィルス不活化ワクチンの接種による予防が最も有効であり、接種時期は、9月から10月頃が最も良いとされています。

岩手県南家畜衛生推進協議会では、本病を予防するため、平成25年度よりワクチンの取扱いを始めましたのでご活用下さい。

メーカーによると、このワクチンは、①と畜出荷制限の短縮と②注射局所に異常が認められないなど安全性の向上が図られた製品とのことです。

ワクチンの接種代金は、1頭、1回あたり1,200円ですが、初めて接種を受ける牛は、年2回、次年度以降の継続は、年1回の接種が推奨されています。

なお、牛コロナウィルス病についての詳細は、岩手県南家畜保健衛生所にお問合わせください。



コロナウイルスによる水様便

～発行担当よりお知らせ～

印刷物の配布を中止し、Eメールにて配信をご希望の方は下記までご連絡ください。

併せて、ご意見・ご要望も承ります。

編集・発行

〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字東館 41-1

岩手県南家畜保健衛生所 TEL 0197-23-3531 FAX 0197-23-3593
(佐々木・吉田・竹下)

岩手県南家畜衛生推進協議会 TEL 0197-24-5532 FAX 0197-23-6988
(横屋)